

縁

——集いの広場——

第6号

……………民俗地図特集……………

民俗地図を特集するにあたって…………… 高久 舞 (1)

九州におけるモグラウチの分布…………… 三輪 京子 (8)

滋賀における字誌刊行リストの作成と
民俗調査への活用について…………… 吉村 風 (17)

新潟県の道祖神信仰…………… 倉石 忠彦 (36)

「私」とは何か ——ある民俗学者による考察——…………… 真野 俊和 (47)

グラを含むものが多いということを示すために、モグラ以外の名称についても記した。しかし十五夜と亥の子の名称のすべてまでは一枚に書き加えられず、十五夜と亥の子についてはモグラを含むものだけを記すことになった。地図⑤⑦では、唱え言葉と目的は多様である上に別々の意味合いが重複しながら分布している状況を一枚に表しにくかったため、モグラに関する記述のみを示すことにした。要素ごとに全期日の全例を一枚に分かりやすく示すのが理想であったが、藁東で地面を叩く儀礼同士であるならまだしも、小正月頃の削りかけのような棒で地面を叩く事例と、亥の子の石に縄をつけたもので地面を叩く事例とを、地面を叩く点では同一であると捉えて一枚の地図にまとめてもよかったのかという疑問もある。地図作成の基準や方法、また資料収集の基準についても再度検討しながら進めていきたい。

註

- (1) 拙稿「九州における地面を叩く年中行事―期日と用具について―」『信濃』第六十五巻第一号 信濃史学会 平成二十五年
- (2) 方城町史編纂委員会『方城町史』方城町 昭和四十四年 五六六頁
- (3) 三輪町教育委員会『三輪町史』三輪町役場 昭和四十五年 一三五頁
- (4) 大和町史編纂実務委員会『大和町史 通史編 下巻』大和町 平成十三年 三八四―二八九頁
- (5) 文化町『日本民俗地図Ⅱ(年中行事2) 解説編』国土地理協会 昭和四十六年 五四二頁
- (6) 相良村誌編纂委員会『相良村誌人文編』相良村 平成八年 四二〇頁
- (7) 椎葉村『椎葉村史』平成六年 九七〇―九七一頁
- (8) 鶴田町郷土誌編纂委員会『鶴田町郷土誌』鶴田町 平成十七年 八七二頁
- (9) 知覧町郷土誌編纂委員会『知覧町郷土誌』知覧町 平成十四年 一三〇七頁
- (10) 註1の地図①と地図②に、福岡県遠賀郡水巻町、大分県竹田市の小正月頃の事例で見落としていた地点の印を押した。
- (11) 註5と同書、五五二頁。「里村」と誤植。
- (12) 都城市史編纂委員会『都城市史別編 民俗・文化財』都城市 平成八年 三九五頁
- (13) 宮崎県緊急民俗文化財分布調査の報告書原票より 国富町深年
- (14) 瓜生野倉岡郷土誌編纂委員会『瓜生野倉岡郷土誌』宮崎市北支所内北地区振興会事務局 昭和六十一年 六一六頁

滋賀における字誌刊行リストの作成と
民俗調査への活用について
吉村 風

1 はじめに

近年、「字誌」とよばれる地域史の研究が始まっている。この字誌とは「小さな「地域史誌」とされ、市町村の行政区画より狭く、大字単位か大字単位で刊行される自治体史誌である¹⁾。

こうした字誌は全国で作成されているが、なかでも沖繩における字誌作成が有名である。沖繩では、三〇〇点以上の字誌が刊行され、また一冊が一〇〇ページを超える字誌も多く刊行されている。沖繩では、字誌は、地域研究だけでなく、エスノグラフィ―研究や社会教育的意義など、様々な研究の土台となりつつある。

今回、紹介する滋賀県も字誌の刊行の盛んな地域であり、本稿では、二〇一四年現在、滋賀県内全域の字誌刊行がどのようになっているか、基礎調査として目録を作成し、またこれらの字誌が民俗調査の資料として、どのように活用できるかを検討するものである。

2 滋賀県内における字誌・字誌関連刊行状況

滋賀県内における字誌の刊行状況としては、二〇〇五年に渡部幹雄が「自治体史編さん事業と字誌編さん」として、愛荘町の字誌を中心に紹介している。渡部は字誌を「①集落住民によって組織された編集組織が編集したもの、②おおむね一〇〇頁以上の印刷物、③対象エリアを集落に限定した内容のもの」と定義し、字誌の発行が湖東地域で特に多い点、また字誌の発行は市町村史などの自治体史の発行と歩調を合わせたものであること

表1 字誌ならびに字誌関連リストの定義

| 分類 | 対象範囲 | 著者・出版者 | 備考 |
|------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 字誌 | 字・学区を単位とし、歴史・民俗、地誌を記したものの | 著者・出版者いずれかが自治会・公民館・学区のもの | 字内の老人クラブなどを含む。 |
| 字誌関連 | 民俗、地誌を記したものの | 著者・出版者いずれも自治会・公民館・学区でないもの | 教育委員会・小学校が作成する郷土誌・郷土誌読本を含む |

- (15) 高岡町史編纂委員会『高岡町史(下巻)』高岡町 昭和六十二年 七七〇頁
- (16) 河野スミ子『子供のころの風習』平成十一年 三四四頁(宮崎県川南町) など
- (17) 竹田市史刊行会『竹田市史下巻』昭和六十二年 一三二八頁など
- (18) 註5と同書、五四七頁(佐賀県嬉野町不動山) / 西有田町史編纂委員会『西有田町史下巻』西有田町 昭和六十三年 二六三頁
- (19) 栖本町誌編纂委員会『栖本町誌』栖本町 平成十八年 七七五頁
- (20) 註13と同資料。
- (21) 庄内町・庄内町教育委員会『庄内町誌下巻』平成一〇年 六〇九頁
- (22) 浜田隆一『天草島民俗誌』郷土研究社、昭和七年『日本民俗大系第十二巻』所収七十五頁
- (23) 福岡県遠賀郡水巻町では、モグラウチで「二四日のもぐらうち、隣さえいきやがれ」とあるが、亥の子でも「二四日の亥の子餅つかんやっあ鬼産め蛇産め角生えた子産め」などと言って石に縄を付けたもので地面を叩いたという。(水巻町郷土誌編纂委員会『水巻町誌』昭和三十七年 三一九頁と三二五頁)
- (24) 筑後市史編纂委員会『筑後市史 第三巻』筑後市 平成十年 七十四頁
- (25) 註17と同書、二二七頁
- (26) 諸塚村史編纂委員会『諸塚村史』諸塚村 平成元年 八〇四頁
- (27) 註17と同書 一七八頁
- (28) 千歳村誌刊行会『千歳村誌』昭和四十九年 三一八頁
- (29) 註24と同書、七十四頁
- (30) 小野重朗『十五夜綱引きの研究』慶友社 昭和四十八年 三十八頁
- (31) 小城町史編纂委員会『小城町史』小城町役場 昭和四十九年 六五八頁
- (32) 註5と同書、五四六頁
- (33) 塩田町史編纂委員会『塩田町史下巻(近代・現代編)』佐賀県藤津郡塩田町 昭和五十九年 四六二頁
- (34) 註5と同書、五四八頁
- (35) 註5と同書、五五九頁
- (36) 岡垣町史編纂委員会『岡垣町史』岡垣町 昭和六十三年 八八五頁
- (37) 筑穂町誌編纂委員会『筑穂町誌下巻』筑穂町 平成十五年 四五〇頁

を指摘している。

本論文では渡部の定義をさらに広げ定義を行った。実際の字誌では、著者・編者は個人であるが、自治会・公民館などの集落住民による組織が刊行・出版するケースもあることから、著者・出版者いずれかが自治会・公民館・学区であるものを「字誌」とし、著者・出版者いずれも自治会・公民館・学区でないものを「字誌関連」として分類した。

またページ数についてであるが、予算などの制約から、少ないページ数のものとなっている字誌もあるため、ページ数は問わず、表1 字誌ならびに字誌関連リストの定義のように字誌と字誌関連を定義した。

字誌のリスト作成にあたっては滋賀県立図書館の
・ 滋賀県立図書館蔵書検索
<http://www.shiga-pref-library.jp/wo/opc/srh/?s-type=adv>

を使用し、主件名で(滋賀分類↓歴史一般・行幸啓)に分類されているものと、(社会一般の風俗習慣・民俗)に分類されているリストを検索し、タイトルや現物から判断して抽出した。

また一部は、前記、渡部の論文には記載があるものの、県立図書館には蔵書がなかったため、

- ・ 県内図書館横断検索(滋賀県立図書館)
<http://cross.shiga-pref-library.jp/wo/crs/>
- ・ 国立国会図書館サーチ(国立国会図書館)
<http://iss.ndl.go.jp/>

にて検索を行い、書誌情報を収集したものである。

結果、表2のとおり、二〇一四年三月現在、字誌一八三点、字誌関連として一〇二点の計二八五点の刊行があることが確

表2 滋賀県内における字誌・字誌関連リスト

| 項番 | 字誌・字誌 関連 | 滋賀県立 図書館蔵 | 市町村立 図書館で のみ所蔵 | 国立国会 図書館蔵 | タイトル |
|----|-------------|--------------|----------------------|--------------|-------------------------------|
| 1 | 字誌関連 | ■ | | | 郷土目加田史 |
| 2 | 字誌 | ■ | | | 蚊野誌 ふるさと・とくほん |
| 3 | 字誌 | ■ | | | 栗田史 上 |
| 4 | 字誌 | ■ | | | 栗田史 下 |
| 5 | 字誌関連 | ■ | | | 村人のあしあと |
| 6 | 字誌関連 | ■ | | | 郷土史 第1輯 |
| 7 | 字誌 | ■ | | ■ | 安孫子史 上 |
| 8 | 字誌 | ■ | | ■ | 安孫子史 中 |
| 9 | 字誌 | ■ | | ■ | 安孫子史 下 |
| 10 | 字誌 | ■ | | ■ | 東園堂誌 ふるさと創生 [正] |
| 11 | 字誌 | ■ | | ■ | 松尾寺誌 |
| 12 | 字誌 | ■ | | ■ | 元持今昔誌 |
| 13 | 字誌 | ■ | | ■ | 目加田誌 上 |
| 14 | 字誌 | ■ | | ■ | 目加田誌 下 |
| 15 | 字誌 | ■ | | ■ | 島川誌 |
| 16 | 字誌 | ■ | | ■ | 東出誌 |
| 17 | 字誌 | ■ | | ■ | 竹原志 滋賀県愛知郡秦荘町大字竹原郷土誌 |
| 18 | 字誌 | ■ | | ■ | 東園堂誌 うちのあゆみ 続 |
| 19 | 字誌 | ■ | | ■ | ふるさと 長野の歩み 上 |
| 20 | 字誌 | ■ | | ■ | ふるさと 長野の歩み 下 |
| 21 | 字誌 | ■ | | ■ | 写真でみる中宿のあゆみ 中宿公民館新築 河脇神社殿造営記念 |
| 22 | 字誌 | ■ | | ■ | 字史香之庄のあゆみ 常夜燈のともるむら |
| 23 | 字誌 | ■ | | ■ | ふるさとの歴史 第1集 |
| 24 | 字誌関連 | ■ | | ■ | これが私のふるさとです |
| 25 | 字誌 | ■ | | ■ | 北里のあゆみ ふれあい・ぬくもり・しあわせのまち |
| 26 | 字誌 | ■ | | ■ | ふるさとの歴史 第1集、第2集、第3集 |
| 27 | 字誌 | ■ | | ■ | 生々流転 江頭町史 |
| 28 | 字誌 | ■ | | ■ | ふるさと・岡山の古を訪ねて 第1集 |
| 29 | 字誌 | ■ | | ■ | 鷹飼の歩み |
| 30 | 字誌 | ■ | | ■ | ふるさと・岡山の古(いにしえ)を訪ねて 第2集 |
| 31 | 字誌関連 | ■ | | ■ | はちまん今むかし物語 |
| 32 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 当村(沖島)由緒書 |
| 33 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 眞野風土記 |
| 34 | 字誌 | ■ | | ■ | 大石のあゆみ |
| 35 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 栗津拾遺集 |
| 36 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 木戸の里歴史めぐり |
| 37 | 字誌関連 | ■ | | ■ | わたしたちの葛川 |
| 38 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 衣川 |
| 39 | 字誌 | ■ | | ■ | 源俊頼歌集 田上集の里 |
| 40 | 字誌 | ■ | | ■ | 晴嵐史話 |
| 41 | 字誌 | ■ | | ■ | 月輪栗林史 |
| 42 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 膳所・栗津の拾遺集 |
| 43 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 小松村史覚書 |
| 44 | 字誌 | ■ | | ■ | 大津市錦織町 |
| 45 | 字誌 | ■ | | ■ | 藤尾の歴史 |
| 46 | 字誌関連 | ■ | | ■ | ふるさと衣川 |
| 47 | 字誌 | ■ | | ■ | 昔を今、語りつぐわがまち瀬田東 |
| 48 | 字誌 | ■ | | ■ | もっと知ろう我が街瀬田東 |
| 49 | 字誌 | ■ | | ■ | ふる里・田上再発見 1号 |
| 50 | 字誌 | ■ | | ■ | 瀬田東 知ろう うつりゆく山や池 郷土史読本 |
| 51 | 字誌 | ■ | | ■ | 南大萱史 |
| 52 | 字誌 | ■ | | ■ | 月輪史 |
| 53 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 唐崎の歴史 |
| 54 | 字誌 | ■ | | ■ | ふる里・田上再発見 2号 |
| 55 | 字誌 | ■ | | ■ | 平津一丁目物語 |
| 56 | 字誌 | ■ | | ■ | 平津二丁目物語 |
| 57 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 津田江町明治百年史 |
| 58 | 字誌関連 | ■ | | ■ | 野路の玉川と野路の歴史 |
| 59 | 字誌 | ■ | | ■ | 郷土のかおり |

| 著者 | 出版者 | 出版年 | 自治体分布 |
|-------------------------|------------------------|-------|-------|
| 北川三郎 // 著 | 北川三郎 | 1981年 | 愛荘町 |
| 蚊野誌編集委員会 // 編集 | 秦荘町蚊野 | 1989年 | 愛荘町 |
| 栗田史編集委員会 // 編集 | 滋賀県愛知郡秦荘町大字栗田 | 1993年 | 愛荘町 |
| 栗田史編集委員会 // 編集 | 滋賀県愛知郡秦荘町大字栗田 | 1993年 | 愛荘町 |
| 愛知川町大字長野 // 編集 | 愛知川町大字長野 | 1993年 | 愛荘町 |
| 東部中学校篠原校舎郷土班 // 編輯 | 東部中学校篠原校舎郷土班 | 1951年 | 近江八幡市 |
| 安孫子壮年会安孫子史編さん委員会 // 編 | 安孫子壮年会 | 1985年 | 愛荘町 |
| 安孫子壮年会安孫子史編さん委員会 // 編 | 安孫子壮年会 | 1986年 | 愛荘町 |
| 安孫子壮年会安孫子史編さん委員会 // 編 | 安孫子壮年会 | 1987年 | 愛荘町 |
| 東円堂公民館 // 編集 | 東円堂公民館 | 1991年 | 愛荘町 |
| 松尾寺誌編集委員会 // 編集 | 秦荘町大字松尾寺 | 1996年 | 愛荘町 |
| 大字元持字誌編集委員会 // 編集 | 秦荘町大字元持 | 1997年 | 愛荘町 |
| 大字目加田誌編集委員会 // 編集 | 秦荘町大字目加田 | 1998年 | 愛荘町 |
| 大字目加田誌編集委員会 // 編集 | 秦荘町大字目加田 | 1998年 | 愛荘町 |
| 島川誌編集委員会 // 編集 | 秦荘町大字島川 | 2000年 | 愛荘町 |
| 東出字誌編集委員会 // 編集 | 秦荘町大字東出 | 2000年 | 愛荘町 |
| 創意と工夫の郷づくり委員会 // 編 | 創意と工夫の郷づくり委員会 | 2000年 | 愛荘町 |
| 東円堂公民館 // 編集 | 東円堂公民館 | 2001年 | 愛荘町 |
| 長野字誌編さん委員会 // 編集 | 滋賀県愛知郡愛荘町長野西 | 2011年 | 愛荘町 |
| 長野字誌編さん委員会 // 編集 | 滋賀県愛知郡愛荘町長野西 | 2011年 | 愛荘町 |
| 中宿自治会 | 中宿自治会 | 2012年 | 愛荘町 |
| 愛荘町香之庄字史研究会 // 編集 | 滋賀県愛知郡愛荘町香之庄自治会 | 2013年 | 愛荘町 |
| 嶋澤良一 // 著 | 武佐公民館 | 1989年 | 近江八幡市 |
| 「これが私のふるさとです」編集委員会 // 編 | 近江八幡市地域総合センター | 1991年 | 近江八幡市 |
| 北里学区しあわせのまちづくり審議会 // 編集 | 北里学区しあわせのまちづくり審議会 | 1994年 | 近江八幡市 |
| 嶋澤良一 // 著 | 武佐公民館 | 1995年 | 近江八幡市 |
| 江頭町町史編集委員会 // 編集 | 江頭町自治会 | 1998年 | 近江八幡市 |
| 岡山文化振興会 // 編集 | 岡山公民館 | 1999年 | 近江八幡市 |
| 鷹飼町町史編集委員会 // 編集 | 近江八幡市鷹飼町自治会 | 1999年 | 近江八幡市 |
| 岡山文化振興会 // 編集 | 岡山公民館 | 2000年 | 近江八幡市 |
| 近江八幡市郷土史会 // 編集 | 近江八幡市郷土史会 | 2002年 | 近江八幡市 |
| 西居清三郎 // 編 | 西居清三郎 | 2003年 | 近江八幡市 |
| 結城実誠 // 著 | 結城実誠 | 1958年 | 大津市 |
| 大石のあゆみ編集委員会 // 編 | 大津市旧大石村合併二十周年記念事業開催委員会 | 1970年 | 大津市 |
| 椿政隆 // 原著 | 本多神社社務所 | 1972年 | 大津市 |
| 志賀町立木戸小学校 // 編 | 木戸小学校百周年記念実行委員会 | 1974年 | 大津市 |
| わたしたちの葛川編集委員会 // 編集 | 大津市立葛川小学校 | 1975年 | 大津市 |
| 千葉乗隆 // 編 | 同朋舎 | 1976年 | 大津市 |
| 源俊頼 // 著 | 田上郷土史料館 | 1979年 | 大津市 |
| 晴嵐史編集委員会 // 編集 | 晴嵐コミュニティ推進委員会 | 1980年 | 大津市 |
| 月輪栗林史編集委員会 // 編 | 月輪栗林町 | 1981年 | 大津市 |
| 竹内将人 // 著 | 竹内将人 | 1990年 | 大津市 |
| 塩谷直 // 著 | 塩谷直 | 1992年 | 大津市 |
| — | 錦織町 | 1993年 | 大津市 |
| ふるさと創生事業実行委員会 // 編集 | ふるさと創生事業実行委員会 | 1995年 | 大津市 |
| 中村平三郎 // 著 | 中村平三郎 | 1996年 | 大津市 |
| 瀬田東学区郷土誌会編集委員会 // 編集 | 瀬田東学区郷土誌会 | 1998年 | 大津市 |
| 瀬田東学区文化振興会 // 制作 | 瀬田東学区自治連合会 | 1999年 | 大津市 |
| ふる里・田上を考える会 // 編集 | ふる里・田上を考える会 | 2003年 | 大津市 |
| 瀬田東文化振興会郷土史サークル // 編集 | 瀬田東文化振興会 | 2004年 | 大津市 |
| 南大萱史編さん委員会 // 編集 | 南大萱史編さん委員会 | 2004年 | 大津市 |
| 月輪史編集委員会 // 編集 | 月輪史編集委員会 | 2006年 | 大津市 |
| 松野孝一 // 著 | 松野孝一 | 2007年 | 大津市 |
| ふる里・田上を考える会 // 編集 | ふる里・田上を考える会 | 2008年 | 大津市 |
| — | 平津の歴史を書き残し隊 | 2009年 | 大津市 |
| — | [平津の歴史を書き残し隊] | 2011年 | 大津市 |
| 奥村卯一 // 著 | 奥村卯一 | 1969年 | 草津市 |
| 中神良太 // 著 | 草津市文化協会 | 1969年 | 草津市 |
| 草津市中央公民館 // 編 | 草津市中央公民館 | 1975年 | 草津市 |

| | | | | |
|-----|------|---|---------|------------------------------------|
| 60 | 字誌関連 | ■ | ■ | 近江国野洲郡野田村略史 [[正] |
| 61 | 字誌 | ■ | | ふるさと矢橋の今・むかし |
| 62 | 字誌 | ■ | ■ | 野路のくらしと歩み |
| 63 | 字誌関連 | ■ | | 志津村史 原始・古代編 |
| 64 | 字誌関連 | ■ | | 志津村史 中世編 1 |
| 65 | 字誌関連 | ■ | | 志津村史 中世編 2 |
| 66 | 字誌 | ■ | | ふるさとあつまり |
| 67 | 字誌 | ■ | | まほろば |
| 68 | 字誌関連 | ■ | | ひぼこの里吾名邑 |
| 69 | 字誌 | ■ | | 地域のおはなしシリーズ 1 みなみがさひがしのむかしむかし |
| 70 | 字誌 | ■ | | みなみがさ歴史 まちづくりの原点を温故知新に置いて |
| 71 | 字誌 | ■ | | 地域のおはなしシリーズ 2 南笠の歴史をさぐる |
| 72 | 字誌 | ■ | | 地域のおはなしシリーズ 3 桃の季節梨の季節柿の季節 |
| 73 | 字誌関連 | ■ | | 私たちの今郷 |
| 74 | 字誌 | ■ | | ふる里松尾 |
| 75 | 字誌 | ■ | | ふるさと小佐治 |
| 76 | 字誌 | ■ | | ふるさと柑子 |
| 77 | 字誌関連 | ■ | | 寺庄誌 |
| 78 | 字誌関連 | ■ | | 私たちの小川出 上巻 |
| 79 | 字誌 | | 甲賀市立図書館 | 佐山村志 |
| 80 | 字誌関連 | ■ | | ふる里の下山 |
| 81 | 字誌 | ■ | | ふるさとの歴史 松原町 |
| 82 | 字誌関連 | ■ | | 新城の歴史と私の人生八十余年 |
| 83 | 字誌 | ■ | | 田堵野誌 タドノの昔と今 [正] |
| 84 | 字誌 | ■ | | 田堵野誌 追録 |
| 85 | 字誌 | ■ | | 上野の黎明 |
| 86 | 字誌 | ■ | ■ | 郷土史ふるさと深川 |
| 87 | 字誌 | ■ | | 磯尾史 秘境めく山伏の里 |
| 88 | 字誌 | ■ | | ふるさと油日 |
| 89 | 字誌 | ■ | | 和田郷史 |
| 90 | 字誌 | ■ | | 鳥居野史 |
| 91 | 字誌 | ■ | | ふるさと神村 |
| 92 | 字誌関連 | ■ | | 水源の里 しがらき 第1輯 |
| 93 | 字誌 | ■ | | ふる里三大寺 |
| 94 | 字誌関連 | ■ | | 水源の里 しがらき 第2輯 昭和28年の大水害 ～あの日から50年～ |
| 95 | 字誌関連 | ■ | | あゆみ50年 創立五十年記念誌 |
| 96 | 字誌 | ■ | | ふるさと春日 |
| 97 | 字誌関連 | ■ | ■ | 宿場町つちやま 土山宿を歴史する |
| 98 | 字誌 | ■ | | 史料による呉竹の歩み |
| 99 | 字誌 | ■ | | 小川原史 |
| 100 | 字誌 | ■ | | 横関史 |
| 101 | 字誌 | ■ | | 長寺東字誌 |
| 102 | 字誌 | ■ | | 下之郷の歴史 [1] |
| 103 | 字誌 | ■ | | 金屋誌 ヤッサの里 |
| 104 | 字誌 | ■ | ■ | 法養寺誌 |
| 105 | 字誌 | ■ | | 下之郷の歴史 2 |
| 106 | 字誌関連 | ■ | | 農と暮らしの記録 |
| 107 | 字誌 | ■ | | ふるさとの歴史妙感寺 |
| 108 | 字誌 | ■ | | 平松区史 |
| 109 | 字誌 | ■ | | しもだ六百年 |
| 110 | 字誌関連 | ■ | | 「近江下田史」落穂集 |
| 111 | 字誌 | ■ | ■ | ももづてのさと(百伝) 岩根東区誌 |
| 112 | 字誌関連 | ■ | ■ | 妙感寺史 |
| 113 | 字誌関連 | ■ | | 菩提寺の昔ばなし じいちゃん・ばあちゃんにきく。 |
| 114 | 字誌関連 | ■ | | 愛郷誌 |
| 115 | 字誌関連 | ■ | | 薬園誌 |
| 116 | 字誌関連 | ■ | | 上弘部の歴史 |
| 117 | 字誌 | ■ | | 輪ノ内の昔 上 北船木史稿 古代・中世編 |
| 118 | 字誌 | ■ | ■ | 輪ノ内の昔 下 北船木史稿 近世・近代編 |
| 119 | 字誌 | ■ | | 南市史 |
| 120 | 字誌関連 | ■ | | 今津の昔 |
| 121 | 字誌関連 | ■ | | 今津葦海村小史扣 [正] 今津・中浜・本町の百年 |
| 122 | 字誌 | ■ | | ふるさと下小川 |

| | | | |
|---------------------------|-----------------|-------|-----|
| 木村武則 // 編輯 | 木村武則 | 1980年 | 草津市 |
| ふるさと矢橋まつり実行委員会 // 編 | 草津市矢橋町 | 1986年 | 草津市 |
| 野路のくらしと編さん委員会 // 編 | 野路町 | 1986年 | 草津市 |
| 奥村修 // 著 | 奥村修 | 1987年 | 草津市 |
| 奥村修 // 著 | 奥村修 | 1990年 | 草津市 |
| 奥村修 // 著 | 奥村修 | 1990年 | 草津市 |
| 川端善二 // 著 | 草津市集町 | 1996年 | 草津市 |
| 山本利貞 // 編集 | 馬場町内会 | 1999年 | 草津市 |
| 石田市蔵 // [編集] | 石田市蔵 | 2000年 | 草津市 |
| 南笠東学区街づくり推進委員会 // 編集 | 南笠東学区自治連合会 | 2002年 | 草津市 |
| 小寺實 // 編集 | 南笠町内会 | 2002年 | 草津市 |
| 南笠東学区街づくり推進委員会 // 編集 | 南笠東学区自治連合会 | 2003年 | 草津市 |
| 南笠東学区街づくり推進委員会 // 編 | 南笠東学区まちづくり協議会 | 2013年 | 草津市 |
| 山田 徳蔵 // 共著 | 山田徳蔵 | 1980年 | 甲賀市 |
| ふるさと松尾編集委員会 // 編 | ふるさと松尾編集委員会 | 1984年 | 甲賀市 |
| ふるさと小佐治編集委員会 // 編集 | 滋賀県甲賀町大字小佐治 | 1987年 | 甲賀市 |
| 柑子老人クラブ // 編集 | 柑子区事務所 | 1990年 | 甲賀市 |
| 杉本丑松 // 著 | 杉本栄之助 | 1951年 | 甲賀市 |
| 相楽卯一 // 編 | 相楽卯一 | 1974年 | 甲賀市 |
| — | 佐山村区 | 1975年 | 甲賀市 |
| 伴 隆一 // 著 | 伴隆一 | 1980年 | 甲賀市 |
| 鶴飼眞五 // [ほか] 編 | 水口町松原町 | 1987年 | 甲賀市 |
| 武田慶治郎 // 著 | 武田慶治郎 | 1991年 | 甲賀市 |
| 甲賀町大字田堵野 // 編集 | 甲賀町大字田堵野 | 1993年 | 甲賀市 |
| 甲賀町大字田堵野 // 編集 | 甲賀町大字田堵野 | 1993年 | 甲賀市 |
| 大字上野誌編集委員会 // 編集 | 大字上野 | 1995年 | 甲賀市 |
| 郷土史編纂委員会 // 編集 | 大字深川 | 1996年 | 甲賀市 |
| 磯尾史談会磯尾史編集委員会 // 編集 | 磯尾史談会磯尾史編集委員会 | 1997年 | 甲賀市 |
| [油日創意と工夫の郷づくり委員会] // [編集] | 油日創意と工夫の郷づくり委員会 | 1998年 | 甲賀市 |
| [和田郷史編纂委員会] // [編集] | 和田郷史編纂委員会 | 1998年 | 甲賀市 |
| 鳥居野史編集委員会 // 編集 | 大字鳥居野 | 1999年 | 甲賀市 |
| 神郷土史編集委員会 // 編集 | 滋賀県甲賀郡甲賀町大字神 | 1999年 | 甲賀市 |
| 水源の里しがらきの会 // 編集 | 水源の里しがらきの会 | 2002年 | 甲賀市 |
| ふる里三大寺編集委員会 // 編集 | 大字三大寺区 | 2003年 | 甲賀市 |
| 水源の里しがらきの会 // 編集 | 水源の里しがらきの会 | 2005年 | 甲賀市 |
| 水口町郷土史会 // 編集 | 水口町郷土史会 | 2009年 | 甲賀市 |
| ふるさと春日編纂委員会 // 編集 | 甲賀市水口町春日区 | 2009年 | 甲賀市 |
| 高橋慶一 // 著 | 高橋慶一 | 2011年 | 甲賀市 |
| 呉竹隣保館 // 編 | 呉竹隣保館 | 1974年 | 甲良町 |
| 小川原史編纂委員会 // 編纂 | 甲良町小川原 | 1996年 | 甲良町 |
| 横関史編集委員会 // 編集 | 甲良町横関区 | 1996年 | 甲良町 |
| 橋本武浩 // 編集責任 | 長寺東区 | 1998年 | 甲良町 |
| 下之郷の歴史編集委員会 // 編集 | 下之郷の歴史編集委員会 | 2001年 | 甲良町 |
| 金屋誌編纂委員会 // 編纂 | 甲良町大字金屋区 | 2004年 | 甲良町 |
| 法養寺誌編集委員会 // 編集 | 法養寺区 | 2004年 | 甲良町 |
| 下之郷の歴史編集委員会 // 編集 | 下之郷の歴史編集委員会 | 2008年 | 甲良町 |
| 甲良町教育委員会郷土誌編纂委員会 // 編集 | 甲良町教育委員会 | 2011年 | 甲良町 |
| ふるさとの歴史編纂委員会 // 編集 | 妙感寺区 | 1991年 | 湖南市 |
| 平松区史編集委員会 // [編集] | 平松区史編集委員会 | 1991年 | 湖南市 |
| [下田連合区] 郷づくり事業史誌部会 // 編集 | 下田連合区 | 1995年 | 湖南市 |
| 谷口全 // 著 | 谷口全 | 2002年 | 湖南市 |
| 岩根東区誌編纂委員会 // 編集 | 岩根東区 | 2006年 | 湖南市 |
| 竹貫元勝 // 著 | 中外日報社事業 | 2009年 | 湖南市 |
| 儀平塾 // 編集 | 儀平塾 | 2013年 | 湖南市 |
| 青谷寅吉 // 著 | 海濱會 | 1958年 | 高島市 |
| 饗庭昌威 // 編 | 保木信二 | 1970年 | 高島市 |
| 墨友留造 // 著 | 墨友留造 | 1986年 | 高島市 |
| 橋本鉄男 // 著 | 北船木史稿刊行会 | 1989年 | 高島市 |
| 橋本鉄男 // 著 | 北船木史稿刊行会 | 1991年 | 高島市 |
| 南市史刊行委員会 // 編集 | 南市区 | 1993年 | 高島市 |
| 墨友留造 // 著 | 墨友留造 | 1995年 | 高島市 |
| 森田吉則 // 著 | 森田吉則 | 1995年 | 高島市 |
| [ふるさと下小川発刊実行委員会] // [編集] | ふるさと下小川発刊実行委員会 | 1998年 | 高島市 |

| | | | | |
|-----|------|---|---------|----------------------------------|
| 123 | 字誌 | ■ | ■ | 南船木史 |
| 124 | 字誌 | ■ | | 新保誌 |
| 125 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと五十川 新旭町五十川区誌 |
| 126 | 字誌 | ■ | | 庄堺史「創意と工夫の郷づくり事業」による |
| 127 | 字誌関連 | ■ | ■ | みちのまち今津 今津の町史をひもとく |
| 128 | 字誌関連 | ■ | | 村の語部 徒然なるがままに |
| 129 | 字誌関連 | ■ | | 梅原小誌 |
| 130 | 字誌 | ■ | | 西地区郷土の顔づくり 昭和59年度 |
| 131 | 字誌 | ■ | | 榊の今と昔(小史) |
| 132 | 字誌 | ■ | | 岡のくらし今昔 クラブ員が語り合う |
| 133 | 字誌 | ■ | ■ | 久徳史 |
| 134 | 字誌関連 | ■ | ■ | 久徳史こぼればなし |
| 135 | 字誌 | ■ | | 脇ヶ畑史話 |
| 136 | 字誌 | ■ | ■ | 敏満寺史 親と子の郷土読本 |
| 137 | 字誌 | ■ | | 多賀町の歩み |
| 138 | 字誌 | ■ | ■ | 猿木区誌 |
| 139 | 字誌 | | 豊郷町立図書館 | 雨降野史 |
| 140 | 字誌 | ■ | ■ | 森本の由緒と沿革史 |
| 141 | 字誌関連 | ■ | | ふるさと口分田 郷土史 |
| 142 | 字誌関連 | ■ | | わが村と昌安見久尼 |
| 143 | 字誌 | ■ | | 西黒田風土記 [正] |
| 144 | 字誌関連 | ■ | | 河毛志 |
| 145 | 字誌関連 | ■ | ■ | ふる里長浜いろいろ |
| 146 | 字誌関連 | ■ | | 我がふるさと西野 |
| 147 | 字誌関連 | ■ | | 長浜市加納町史 |
| 148 | 字誌関連 | ■ | | わたくしたちの坂田 |
| 149 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと神田 第1輯 |
| 150 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと神田 第2輯 |
| 151 | 字誌 | ■ | | 東物部郷土誌 |
| 152 | 字誌 | ■ | ■ | 早崎のムラの昔 |
| 153 | 字誌関連 | ■ | | 舟寄せ村の歴史 ふる里を訪ねて奥琵琶湖 |
| 154 | 字誌 | ■ | ■ | 西阿閉百年史 |
| 155 | 字誌 | ■ | | 西黒田風土記 続 |
| 156 | 字誌 | ■ | | ふるさと中河内 |
| 157 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと語る30年 平方南町自治会30周年記念誌 |
| 158 | 字誌 | ■ | ■ | 字誌ふるさと雨森 |
| 159 | 字誌 | ■ | ■ | 丁野誌 璨 しが湖北 |
| 160 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと雨森: 字誌. 第1集(平成12年-平成21年) 増補版 |
| 161 | 字誌関連 | ■ | | 大字小谷の歴史 |
| 162 | 字誌関連 | ■ | | 中野郷土誌 |
| 163 | 字誌 | ■ | | 宮荘沿革史 [正] |
| 164 | 字誌 | ■ | | 宮荘沿革史 続編並に近代編 |
| 165 | 字誌関連 | ■ | | 小椋谷風土記 第1集 |
| 166 | 字誌関連 | ■ | | 小椋谷風土記 第2集 |
| 167 | 字誌関連 | ■ | | 猪子の歴史 |
| 168 | 字誌 | ■ | | 大森のむかし |
| 169 | 字誌関連 | ■ | | ふるさと年史 押立郷を探る |
| 170 | 字誌関連 | ■ | | きぬがさ百話 [1] |
| 171 | 字誌関連 | ■ | | きぬがさ百話 2 |
| 172 | 字誌 | ■ | | 今在家の今昔 |
| 173 | 字誌 | ■ | ■ | 五個荘町史資料集 1 近江商人外村家の家訓・店則集成 |
| 174 | 字誌 | ■ | | 町史 大森のあゆみ |
| 175 | 字誌 | ■ | | いしどうむかしばなし 郷土の顔づくり補助事業 平成元年度 |
| 176 | 字誌関連 | ■ | | きむらのむかしからいま |
| 177 | 字誌関連 | ■ | | やはた春秋 |
| 178 | 字誌関連 | ■ | ■ | 川並いろいろ 明治・大正編 |
| 179 | 字誌関連 | ■ | | 小川の歴史 |
| 180 | 字誌 | ■ | | 二十年史 八日市市南部地区 |
| 181 | 字誌関連 | ■ | | 蒲生町地域史研究会15周年記念誌 |
| 182 | 字誌 | ■ | | 小田苧沿革史 |
| 183 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと小幡史 |
| 184 | 字誌 | ■ | ■ | 上羽田町のあゆみと思ひ出 |
| 185 | 字誌 | ■ | ■ | 浜野のあゆみ |

| | | | |
|--------------------------|-------------------|-------|------|
| 南船木区史編集委員会 // 編集 | 南船木区 | 1999年 | 高島市 |
| 新保誌編集委員会 // 編 | マキノ町大字新保 | 1999年 | 高島市 |
| 五十川区誌編集委員会 // 編集 | 新旭町五十川区 | 1999年 | 高島市 |
| 庄堺区史編集委員会 // 編集 | 庄堺区 | 2000年 | 高島市 |
| — | 今津の歴史を学ぼう会 | 2012年 | 高島市 |
| マキノ地域研究会 // 編集 | マキノ地域研究会 | 1980年 | 高島市 |
| 石田共平 // 著 | 石田共平 | 1984年 | 高島市 |
| 今津町公民館 // 編 | 今津町公民館 | 1984年 | 高島市 |
| 榊自治会創意と工夫の郷づくり委員会 // 編集 | 榊自治会 | 1993年 | 高島市 |
| 岡老人クラブ豊養会 // 編集 | 岡老人クラブ豊養会 | 2003年 | 高島市 |
| 近藤徳三 // [ほか] 編 | 滋賀県犬上郡多賀町久徳 | 1968年 | 多賀町 |
| 小財 敬之介 // [ほか] 編 | 小財 敬之介 | 1970年 | 多賀町 |
| 多賀町史編集委員会 // 編集 | 多賀町公民館 | 1973年 | 多賀町 |
| 敏満寺公民館 // 編集 | 敏満寺公民館 | 1976年 | 多賀町 |
| 近江八幡市多賀町町内会 // 編集 | 近江八幡市多賀町町内会 | 1977年 | 多賀町 |
| 猿木区誌編集委員会 // 編集 | 猿木区誌編集委員会 | 2013年 | 多賀町 |
| 雨降野編集委員会 // 編集 | 豊郷町 | 1997年 | 豊郷町 |
| 服部 修一 // 編 | 森本郷誌刊行会 | 1973年 | 長浜市 |
| 広部 庄太郎 // 著 | 広部庄太郎 | 1978年 | 長浜市 |
| 平塚区事務所 // 編集 | 実宰院史蹟保存会 | 1980年 | 長浜市 |
| 郷土史研究会 // 編集 | 郷土史研究会 | 1980年 | 長浜市 |
| 河毛清一郎 // 著 | 河毛清一郎 | 1983年 | 長浜市 |
| 阿閉良造 // 著 | サンブライ出版 | 1984年 | 長浜市 |
| 成田進夫 // 著 | 成田進夫 | 1986年 | 長浜市 |
| 加納左門 // 著 | 加納左門 | 1987年 | 長浜市 |
| 坂田郡教育会 // 編 | 坂田郡教育会 | 1987年 | 長浜市 |
| ふるさと神田研究会 // 編集 | ふるさと神田研究会 | 1987年 | 長浜市 |
| ふるさと神田研究会 // 編 | ふるさと神田研究会 | 1990年 | 長浜市 |
| 東物部郷土誌編集委員 // 編集 | 東物部区 | 1991年 | 長浜市 |
| 早崎観縁 // 著 | 早崎区 | 1992年 | 長浜市 |
| 蓮敬寺開基五百年記念法要執行委員会 // [編] | 蓮敬寺開基五百年記念法要執行委員会 | 1993年 | 長浜市 |
| 西阿閉百年史編さん委員会 // 編集 | 西阿閉区 | 1994年 | 長浜市 |
| 郷土史研究会 // 編集 | 郷土史研究会 | 1998年 | 長浜市 |
| ふるさと中河内編集委員会 // 編集 | 余呉町 | 1998年 | 長浜市 |
| 平方南町自治会 // [編集] | 平方南町自治会 | 1999年 | 長浜市 |
| 雨森まちづくり委員会 // 編集 | 雨森区 | 2000年 | 長浜市 |
| 丁野区誌編集委員会 // 編集 | 湖北町丁野区 | 2005年 | 長浜市 |
| 雨森まちづくり委員会 // 編集 | 雨森区 | 2010年 | 長浜市 |
| 白井忠博 // 著 | 白井忠博 | 2011年 | 長浜市 |
| 小梶甚三郎 // 編輯 | 小梶甚三郎 | 1929年 | 東近江市 |
| 宮荘振興会 // 編集 | 宮荘振興会 | 1963年 | 東近江市 |
| 宮荘振興会 // 編集 | 宮荘振興会 | 1968年 | 東近江市 |
| 中川 真澄 // 編 | 永源寺町立政所小学校 | 1975年 | 東近江市 |
| 中川真澄 // 編 | 永源寺町立政所小学校 | 1976年 | 東近江市 |
| 小林 秀夫 // 著 | 小林秀夫 | 1981年 | 東近江市 |
| 梅本茂左エ門 // 編 | 布引老人クラブ | 1982年 | 東近江市 |
| 西澤源治 // 著 | 西澤源治 | 1984年 | 東近江市 |
| 中川 真澄 // 執筆 | 能登川町立能登川西小学校 | 1985年 | 東近江市 |
| 中川真澄 // 著 | 中川真澄 | 1987年 | 東近江市 |
| 湖東町今在家老人クラブ // 編集 | 湖東町今在家老人クラブ | 1988年 | 東近江市 |
| 五個荘町史編集委員会 // 編集 | 五個荘町 | 1989年 | 東近江市 |
| 町史大森のあゆみ編集委員会 // 編集 | 八日市市大森町 | 1989年 | 東近江市 |
| 中江甲子生 // 編集 | 石塔明るい町づくり推進委員会 | 1990年 | 東近江市 |
| 中島尹 // 著 | 中島尹 | 1990年 | 東近江市 |
| 中川真澄 // 執筆 | 能登川町立能登川東小学校 | 1991年 | 東近江市 |
| 塚本政男 // 著 | 塚本政男 | 1992年 | 東近江市 |
| 長谷川美雄 // 著 | 長谷川美雄 | 1994年 | 東近江市 |
| 小寺謙治 // [ほか] 編集 | 八日市市立南部公民館 | 1995年 | 東近江市 |
| 蒲生町地域史研究会 // 編集 | 蒲生町地域史研究会 | 1995年 | 東近江市 |
| 小田苧沿革史編集委員会 // 編集 | 小田苧沿革史編集委員会 | 1996年 | 東近江市 |
| ふるさと小幡史編集委員会 // 編集 | 小幡区自治会 | 1999年 | 東近江市 |
| 郷土史編纂部 // 編集 | 上羽田町平石自治会 | 2000年 | 東近江市 |
| 「浜野のあゆみ」編集委員会 // 編集 | 八日市市浜野総自治会 | 2001年 | 東近江市 |

| | | | | |
|-----|------|---|---------|-------------------------------------|
| 186 | 字誌関連 | ■ | ■ | ふるさと湯屋 |
| 187 | 字誌関連 | ■ | ■ | すはせの里 北須田の郷土史 [本編] |
| 188 | 字誌関連 | ■ | ■ | すはせの里 北須田の郷土史 [資料編] |
| 189 | 字誌 | ■ | | なつかしい みんなの玉緒 50年「玉緒地区市制50周年記念事業」写真集 |
| 190 | 字誌関連 | ■ | | 妙法寺町の歴史 続 八日市市 |
| 191 | 字誌関連 | ■ | | 地図・古絵図帳「すはせの里」付録 |
| 192 | 字誌 | ■ | | 鋳物師の歴史 第1巻 |
| 193 | 字誌 | ■ | | 平林史 |
| 194 | 字誌 | ■ | ■ | 字誌 私たちの大澤 東近江市大澤町発足記念 |
| 195 | 字誌 | ■ | | 悠久の山里 ふるさと高野の歴史 |
| 196 | 字誌 | ■ | | ふるさと建部 |
| 197 | 字誌関連 | ■ | ■ | すはせの里 北須田の郷土史 - 補足編 |
| 198 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと伊野部のあゆみ |
| 199 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと竜田 |
| 200 | 字誌 | ■ | | 高宮町史 |
| 201 | 字誌関連 | ■ | ■ | 松原町概略史 |
| 202 | 字誌 | ■ | | わが郷土ふくみつ |
| 203 | 字誌 | ■ | | 甘呂郷土誌 |
| 204 | 字誌 | ■ | | ふるさと鳥居本 [正] |
| 205 | 字誌 | ■ | | ふるさと鳥居本 追録(1) |
| 206 | 字誌関連 | ■ | ■ | 稲枝の歴史 |
| 207 | 字誌 | ■ | | ふるさと鳥居本 続 ふるさと語り伝え七〇〇題 気象・薬草・医療 |
| 208 | 字誌 | ■ | | 郷土史 旭森 |
| 209 | 字誌関連 | ■ | | 開出今物語 - 梅の花と楓 - 彦根市開出今とその移民史 |
| 210 | 字誌関連 | ■ | ■ | 犬上郡誌・高宮町史 |
| 211 | 字誌 | ■ | | 南三ッ谷郷土史 基礎編 |
| 212 | 字誌 | ■ | ■ | 後三條今昔ものがたり |
| 213 | 字誌関連 | ■ | | わが郷土 ふくみつ |
| 214 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと本庄 |
| 215 | 字誌 | ■ | ■ | 肥田町史 |
| 216 | 字誌 | ■ | | 広野町史 |
| 217 | 字誌 | ■ | | わが街あゆみときまり 高宮町日の出東町 |
| 218 | 字誌関連 | ■ | ■ | 旭森を知りたい 旭森郷土学習のための手引 |
| 219 | 字誌 | ■ | | わが郷土 小泉のあゆみ |
| 220 | 字誌 | ■ | | 観音寺町の歩み |
| 221 | 字誌 | ■ | | 鳥居本 歴史と文化のものがたり |
| 222 | 字誌 | ■ | ■ | 日夏の歴史 山・川・道・湧水のムラ |
| 223 | 字誌 | ■ | ■ | 普光寺町史 古い歴史のまち |
| 224 | 字誌 | ■ | ■ | 新高宮町史 |
| 225 | 字誌 | | 米原市立図書館 | 町づくりの歩み |
| 226 | 字誌 | ■ | ■ | 三津誌 勝鳥の里 |
| 227 | 字誌関連 | ■ | ■ | 高宮史あれこれ 西田稔遺稿集 |
| 228 | 字誌関連 | ■ | | 近江日野 ふるさとの系譜 |
| 229 | 字誌関連 | ■ | | 御舎利町のあゆみ 滋賀県蒲生郡日野町大窪御舎利町 |
| 230 | 字誌 | ■ | | 十禅師歴史読本 |
| 231 | 字誌 | ■ | | ふるさと上駒月の歴史 |
| 232 | 字誌 | ■ | | 区誌ふるさと木津 |
| 233 | 字誌 | ■ | ■ | 東桜谷志 |
| 234 | 字誌 | ■ | ■ | 芋くらべの里中山史 [通史編] |
| 235 | 字誌 | ■ | ■ | 芋くらべの里中山史 資料編 |
| 236 | 字誌関連 | ■ | ■ | ふるさと鎌掛の歴史 第3巻 激動期明治維新より昭和30年町村合併まで |
| 237 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと鎌掛の歴史 第1巻 |
| 238 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさと鎌掛の歴史 第2巻 |
| 239 | 字誌関連 | ■ | | 郷土史 近江町長沢村 |
| 240 | 字誌 | ■ | | ふるさと箕浦 |
| 241 | 字誌 | ■ | | ふるさと村木のあゆみ |
| 242 | 字誌 | ■ | | 伊吹のあゆみ 字史 |
| 243 | 字誌 | ■ | | 能登瀬のあゆみ あお木の里 |
| 244 | 字誌関連 | ■ | | 蘇る歴史の彌高山 国指定史跡 |
| 245 | 字誌 | ■ | ■ | 醒が井の里 |
| 246 | 字誌 | ■ | ■ | ふるさといむら |
| 247 | 字誌 | ■ | ■ | 筑摩字誌 |

| | | | |
|------------------------------------|--------------------|-------|------|
| 田中与惣一 // 編集 | 田中与惣一 | 2002年 | 東近江市 |
| 川村弘 // 著 | 川村弘 | 2004年 | 東近江市 |
| 川村弘 // 著 | 川村弘 | 2004年 | 東近江市 |
| 八日市市玉緒公民館 // 編 | 玉緒公民館 | 2004年 | 東近江市 |
| 小森章次 // 著 | 小森章次 | 2004年 | 東近江市 |
| 川村弘 // 著 | 川村弘 | 2004年 | 東近江市 |
| 鋳物師の歴史編さん委員会 // 編集 | 滋賀県蒲生郡蒲生町大字鋳物師区 | 2005年 | 東近江市 |
| 平林自治会 // 編集 | 平林自治会 | 2005年 | 東近江市 |
| 大澤いきいき郷づくり委員会字誌編纂部会 // 編集 | 湖東町大澤区 | 2005年 | 東近江市 |
| 永源寺高野字史会 // 編集 | 永源寺高野字史会 | 2007年 | 東近江市 |
| 東近江市建部地区まちづくり協議会 // 編集 | 東近江市建部地区まちづくり協議会 | 2007年 | 東近江市 |
| 川村弘 // 著 | 川村弘 | 2008年 | 東近江市 |
| 伊野部字史編纂委員会 // 編集 | 五個荘伊野部町自治会 | 2008年 | 東近江市 |
| 竜田史編纂委員会 // 編集 | 滋賀県東近江市五個荘竜田町自治会 | 2013年 | 東近江市 |
| 高宮町史編纂委員会 // 編纂 | 高宮町史編纂委員会 | 1958年 | 彦根市 |
| 前川与市 // 著 | 前川与市 | 1965年 | 彦根市 |
| 尾田確一 // 著 | 福満郷土史研究会 | 1973年 | 彦根市 |
| 甘呂町老人クラブ // 編 | 栄光出版社 | 1976年 | 彦根市 |
| ふるさと鳥居本編集委員会 // 編集 | [鳥居本学区自治連合会] | 1979年 | 彦根市 |
| ふるさと鳥居本編集委員会 // 編集 | [鳥居本学区自治連合会] | 1979年 | 彦根市 |
| 寺田所平 // 著 | 寺田所平 | 1980年 | 彦根市 |
| ふるさと鳥居本編集委員 // 編集 | 鳥居本学区 | 1980年 | 彦根市 |
| 郷土史旭森編纂委員会 // 編 | 郷土史旭森編纂委員会 | 1983年 | 彦根市 |
| 松宮増雄 // 著 | 松宮増雄 | 1984年 | 彦根市 |
| 渡邊 弘人 // 編 | 臨川書店 | 1986年 | 彦根市 |
| 彦根市南三ッ谷町自治会 // 編 | 彦根市南三ッ谷町自治会 | 1987年 | 彦根市 |
| 菌田昭三 // [著] | 後三条「かたりべ」の会 | 1993年 | 彦根市 |
| 尾田 確一 // 著 | 福満郷土史研究会 | 1993年 | 彦根市 |
| ふるさと本庄編纂委員会 // 編集 | 本庄町自治会 | 1994年 | 彦根市 |
| 肥田町自治会 // 編集 | 肥田町自治会 | 1995年 | 彦根市 |
| 広野町史編纂委員会 // 編 | 広野町史編纂委員会 | 1996年 | 彦根市 |
| 高宮学区日の出東町自治会・日の出東街づくり推進委員会 // [編集] | 高宮学区日の出東町自治会 | 1998年 | 彦根市 |
| - | 彦根市立旭森小学校旭森を歩く会 | 1998年 | 彦根市 |
| 小泉町史編纂委員会 // 編集 | 彦根市小泉町内会・小泉町公民館 | 2002年 | 彦根市 |
| 観音寺町町史編纂委員会 // 編集 | 観音寺町自治会 | 2003年 | 彦根市 |
| 彦根市合併50周年記念事業実行委員会 // 編集 | 彦根市合併50周年記念事業実行委員会 | 2003年 | 彦根市 |
| 日夏歴史研究会 // 編集 | 日夏町自治会 | 2004年 | 彦根市 |
| 普光寺町史編纂委員会 // 執筆・編集 | 普光寺町自治会 | 2004年 | 彦根市 |
| 高宮町史編纂委員会 // 編纂 | 高宮学区連合自治会 | 2007年 | 彦根市 |
| 磯区自治会町づくり推進委員会 // 編集 | サンライズ出版 | 2008年 | 彦根市 |
| 三津町まちづくり町誌編纂委員会 // 編纂 | 滋賀県彦根市三津町自治会 | 2010年 | 彦根市 |
| 西田 稔 // 著 | 西田桂子 | 2013年 | 彦根市 |
| 岡村信治 // 著 | 岡村信治 | 1978年 | 日野町 |
| 岡春子 // 著 | 岡春子 | 1988年 | 日野町 |
| 十禅師史編纂委員会 // 編纂 | 滋賀県蒲生郡日野町大字十禅師 | 2000年 | 日野町 |
| 上駒月の歴史を語る会 // 編 | 滋賀県上駒月区 | 2005年 | 日野町 |
| ふるさとをつたえよう会 // 編 | ふるさとをつたえよう会 | 2013年 | 日野町 |
| 東桜谷郷土志編集委員会 // 編 | 東桜谷公民館 | 1984年 | 日野町 |
| 岡本信男 // 著 | 中山東区 | 1997年 | 日野町 |
| 岡本信男 // 著 | 中山東区 | 1997年 | 日野町 |
| 瀬川欣一 // 著 | サンライズ出版 | 2005年 | 日野町 |
| 日野町立鎌掛公民館鎌掛の歴史を学ぶ会 | 日野町立鎌掛公民館鎌掛の歴史を学ぶ会 | 2000年 | 日野町 |
| 日野町立鎌掛公民館鎌掛の歴史を学ぶ会 | 日野町立鎌掛公民館鎌掛の歴史を学ぶ会 | 2000年 | 日野町 |
| 長沢郷土史研究クラブ // 編 | 長沢郷土史研究クラブ | 1982年 | 米原市 |
| ふるさと箕浦編纂委員会 // 編集 | 滋賀県坂田郡近江町大字箕浦自治会 | 1989年 | 米原市 |
| 川瀬春益 // 編集 | 村木区 | 1993年 | 米原市 |
| 伊吹区事務局 // 編集 | 伊吹区 | 2001年 | 米原市 |
| 大字能登瀬史談会 // 編集 | 大字能登瀬史談会 | 2003年 | 米原市 |
| 山寄仁生 // 著 | 山寄仁生 | 2007年 | 米原市 |
| 山岸憲雄 // 著 | 醒井区 | 1986年 | 米原市 |
| 飯郷づくり実行委員会 // 編集 | 飯郷づくり実行委員会 | 1998年 | 米原市 |
| 筑摩字誌編纂委員会 // 編集 | 米原町筑摩区 | 2002年 | 米原市 |

| | | | | |
|-----|------|---|---|------------------|
| 248 | 字誌 | ■ | ■ | たかみぞ(高溝) 白鳳の里 |
| 249 | 字誌関連 | ■ | ■ | 瀬高物語 弥高のあゆみ |
| 250 | 字誌 | ■ | ■ | 湧水の郷宇賀野 米原市宇賀野区 |
| 251 | 字誌 | ■ | | 寺内町金ヶ森町史 [本文編] |
| 252 | 字誌 | ■ | | 寺内町金ヶ森町史 資料編 |
| 253 | 字誌 | ■ | ■ | 古高町民誌 |
| 254 | 字誌 | ■ | ■ | ほんまち 中山道守山宿 |
| 255 | 字誌 | ■ | | 播磨田町誌 条里のむら |
| 256 | 字誌 | ■ | | ほしか町誌 古文書から見た |
| 257 | 字誌 | ■ | | まがりおの里 大曲 |
| 258 | 字誌関連 | ■ | | 下之郷の歴史 私稿 |
| 259 | 字誌 | ■ | | 伊勢町民誌 |
| 260 | 字誌 | ■ | | 杉江邑 杜と水のふるさと |
| 261 | 字誌 | ■ | | わしが在所昔ばなし |
| 262 | 字誌関連 | ■ | | めぐりあい 中主町散歩記 |
| 263 | 字誌関連 | ■ | | 豊積風土記 |
| 264 | 字誌関連 | ■ | | 近江国野洲郡野田村略史 続 |
| 265 | 字誌関連 | ■ | | 三上山誌 |
| 266 | 字誌 | ■ | | 吉川村史 |
| 267 | 字誌関連 | ■ | | 近江国野洲郡野田村略史 補遺編 |
| 268 | 字誌 | ■ | | [野洲] 駅前北史 |
| 269 | 字誌 | ■ | ■ | 小南愛郷史 |
| 270 | 字誌 | ■ | | 六条区と六条樋 |
| 271 | 字誌 | ■ | ■ | 近江大篠原の歴史 |
| 272 | 字誌 | ■ | ■ | 木部誌 |
| 273 | 字誌 | ■ | ■ | 野洲の郷土史 |
| 274 | 字誌 | ■ | ■ | 鋳物師の郷・辻の歴史 |
| 275 | 字誌 | ■ | ■ | 民誌・縋の歴史と文化 |
| 276 | 字誌 | ■ | | 栗東の野尻 |
| 277 | 字誌関連 | ■ | | 新屋敷の歴史 |
| 278 | 字誌 | ■ | | 大橋区誌 |
| 279 | 字誌関連 | ■ | ■ | 縋の歴史と文化 テーマ展 |
| 280 | 字誌 | ■ | | 小柿の歴史 |
| 281 | 字誌関連 | ■ | ■ | 郷土の精華 |
| 282 | 字誌関連 | ■ | | ふるさと |
| 283 | 字誌 | ■ | | 小口史 |
| 284 | 字誌関連 | ■ | ■ | ふるさとの歴史を探る 川守の今昔 |

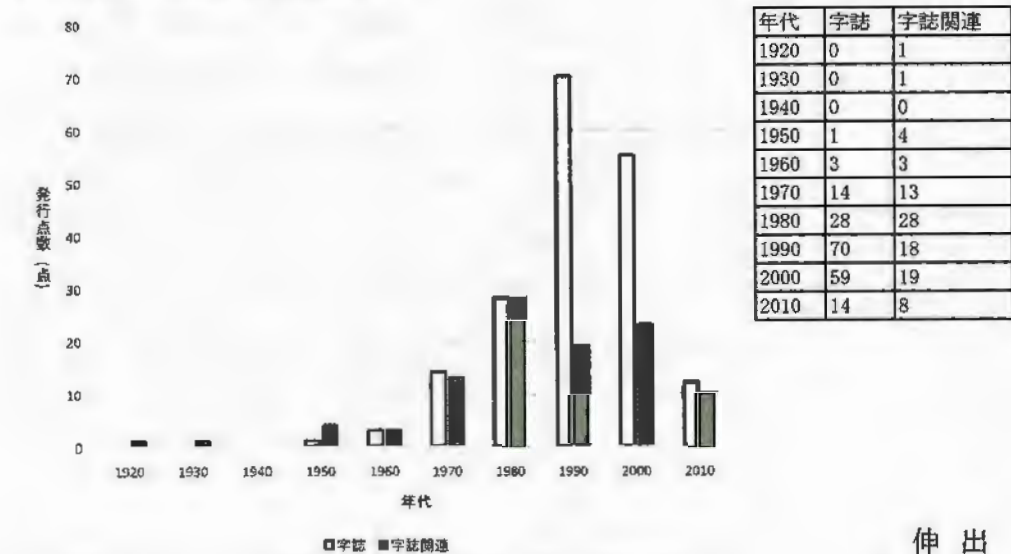
| | | | |
|---------------------|---------------|-------|-----|
| 高溝ロマンの里史編集委員会 // 編集 | 高溝ロマンの里史編集委員会 | 2003年 | 米原市 |
| 山寄仁生 // 著 | 高木弘重 | 2004年 | 米原市 |
| 宇賀野区誌編集委員会 // 編集 | 宇賀野区 | 2012年 | 米原市 |
| 金森町歴史保存研究会 // 編集 | 金森町自治会 | 1995年 | 守山市 |
| 金森町歴史保存研究会 // 編集 | 金森町自治会 | 1995年 | 守山市 |
| 古高町民誌編集委員会 // 編集 | 滋賀県守山市古高町自治会 | 1999年 | 守山市 |
| — | 本町自治会 | 2000年 | 守山市 |
| 播磨田町誌編集委員会 // 編集 | 播磨田自治会 | 2000年 | 守山市 |
| 欲賀町誌編さん委員会 // 編集 | 守山市欲賀町自治会 | 2000年 | 守山市 |
| 大曲町誌編集委員会 // 編集 | 大曲自治会 | 2006年 | 守山市 |
| 高橋 正隆 // 著 | 善慶寺 | 2012年 | 守山市 |
| 伊勢町自治会 // 編集 | 伊勢町自治会 | 2001年 | 守山市 |
| 杉江誌編集委員会 // 編集 | 杉江自治会 | 2001年 | 守山市 |
| 野洲町公民館 // 編 | 野洲町公民館 | 1974年 | 野洲市 |
| 辻弘 // 著 | 辻弘 | 1977年 | 野洲市 |
| 辻弘 // 編 | 辻弘 | 1979年 | 野洲市 |
| 木村武則 // 編輯 | 木村武則 | 1981年 | 野洲市 |
| 鶴飼定吉 // 著 | 鶴飼正寿 | 1981年 | 野洲市 |
| 辻弘 // 編 | 中主町吉川 | 1983年 | 野洲市 |
| 木村武則 // 編 | 木村武則 | 1983年 | 野洲市 |
| 駅前北歴史編さん委員会 // 編集 | 駅前北自治会 | 1988年 | 野洲市 |
| 小南愛郷史編纂委員会 // 編集 | 小南自治会 | 1995年 | 野洲市 |
| 中主町六条区 // 編集 | 中主町六条区 | 1999年 | 野洲市 |
| 大篠原郷土史編集委員会 // 編集 | 大篠原区 | 2003年 | 野洲市 |
| — | 木部自治会 | 2011年 | 野洲市 |
| 野洲区史編集委員会 // 編集 | 野洲自治会 | 2013年 | 野洲市 |
| 辻区史編さん委員会 // 編集 | 滋賀県栗東町辻自治会 | 1999年 | 栗東市 |
| 縋の歴史と文化編集委員会 // 編集 | 栗東市縋自治会 | 2006年 | 栗東市 |
| 加藤保次 // [ほか] 編 | 栗東町大字野尻 | 1988年 | 栗東市 |
| 鷹羽稔 // 著 | 鷹羽稔。 | 1995年 | 栗東市 |
| 大橋区誌編集委員会 // 編集 | 大橋区 | 1997年 | 栗東市 |
| 栗東歴史民俗博物館 // 編集 | 栗東歴史民俗博物館 | 2001年 | 栗東市 |
| 小柿の歴史を語る会 // 編集 | 小柿の歴史を語る会 | 2004年 | 栗東市 |
| 谷口佐吉 // 編 | 鏡山保勝會 | 1935年 | 竜王町 |
| 山中三郎 // 著 | 山中三郎 | 1986年 | 竜王町 |
| 小口史編纂委員会 // 編集 | 竜王町小口区 | 2002年 | 竜王町 |
| 蔵口嘉寿男 // 著 | サンライズ出版 | 2011年 | 竜王町 |

表4 字誌の刊行のある字数と総字数の比率

| | 大津市 | 草津市 | 守山市 | 栗東市 | 野洲市 | 甲賀市 | 湖南市 | 東近江市 | 近江八幡市 | 日野町 | 竜王町 | 彦根市 | 愛荘町 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 字誌・字誌関連発行点数合計 | 24 | 16 | 10 | 7 | 13 | 25 | 7 | 38 | 11 | 11 | 4 | 28 | 21 |
| 字総数 | 227 | 55 | 44 | 34 | 50 | 147 | 44 | 228 | 154 | 54 | 24 | 127 | 41 |
| 字誌の刊行のある字の比率(カバー率) | 10.6% | 29.1% | 22.7% | 20.6% | 26.0% | 17.0% | 15.9% | 16.7% | 7.1% | 22.2% | 16.7% | 22.0% | 51.2% |

| | 豊郷町 | 甲良町 | 多賀町 | 米原市 | 長浜市 | 高島市 | 平均 |
|--------------------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 字誌・字誌関連発行点数合計 | 1 | 9 | 6 | 12 | 22 | 19 | |
| 字総数 | 16 | 12 | 39 | 84 | 313 | 123 | |
| 字誌の刊行のある字の比率(カバー率) | 6.3% | 75.0% | 15.4% | 14.3% | 7.0% | 15.4% | 21.6% |

表5 字誌・字誌関連発行点数の変遷



次は、このリストをもとに字誌の刊行状況を確認してみよう。以下、刊行状況の地域差である。

表3 各市町村における年代別刊行点数は、各市町村における年代別の刊行点数を表にしたものである。すでに渡辺が指摘している通り、東近江地域・湖東地域に出版点数が多く、高島地域、大津と湖西側に比較的刊行が少ないという地域差は見られるものの、全市町村で出版がなされていることがわかる。

また表4 字誌の刊行にある字数と総字数の比率は、郵便番号表から割り出した滋賀県内における字の概算数と、字誌の出版点数の比率から算出した、字誌の刊行のある字数と総字数の比率の概算である。

これによると、甲良町のように発行点数は少ないものの、カバー率は七五・〇パーセントという非常に高い数値を示している町もある。一方、大津市のように発行点数は二四点と多いものの、市域は域内に字が多いため、町に比べると、カバー率が下がる傾向にある。

平均を超えるカバー率の刊行がなされているのは市域の場合、草津市・栗東市・野洲市と南部地域に集中しており、町の場合は東近江地域(日野町二二・二パーセント)、湖東地域(愛荘町五一・二パーセント、甲良町七五・〇パーセント)となっている。

こうした字誌の刊行に地域差がある原因は正確には不明であるが、

- ・ 近隣の字が字誌を出す、その評判を聞いて、自分たちの字でも字誌を出したいという意見が、字内に醸成される。
- ・ 自治体が字誌づくりに補助金を出している(米原市・愛荘町など)

等の理由により、地域差が発生するものと思われる。

次に刊行時期を見てみよう。

表5 字誌・字誌関連は字誌発行点数の変遷について示したグラフである。このグラフを見ると、数点ではあるが、戦前にはすでに字誌関連の書籍が発行されているものの、字が中心となって発行する字誌は一九五〇年代から発行が始まったことがわかる。また一九四〇年代に刊行がないのは第二次世界大戦の影響によるものと思われる。

この字誌と字誌関連の発行点数は一九七〇年代に逆転し、字誌の方が、出版点数が多くなっている。また、一九九〇年代には字誌の出版が大きく伸び、一九八〇年代には二八点だった刊行点数が七〇点に増加している。

この理由としては、この時期、滋賀県における自治体誌の刊行が盛んとなり、字にも自治体誌的な字誌の刊行の機運が高まったことが考えられる。また、これに加えて一九八八年から一九九〇年にかけての竹下内閣のふるさと創生事業と滋賀県のふるさと淡海事業が行われたことにより、字内で字誌刊行が市民権を得たことによるものと考えられる。

3 字誌の構成と記載内容

では、こうした字誌は、どのように作成され、どのような構成がとられるのであろうか?

沖繩などでは、自治体が字誌作成の手引きを出しているが、滋賀県ではまだそうした手引きは作られていない。

滋賀県では字内の郷土史家を中心となって、作成する場合も少なからずあるが、多くの場合、字内の自治会で字誌作成の決定をしたのち、字内の郷土史家や故老、老人会などの役員で編集委員会を立ち上げて作成される。

たとえば愛荘町東田堂では一九九一年と二〇〇一年の二回にわたり、字誌が刊行された。最初の字誌はふるさと創生事業で振り分けられた補助金により編集事業に着手することが決定された。

表3 各市町村における年代別刊行点数

| 年代 | 大津地域 | | | | 南部地域 | | | | 甲賀地域 | | | | 東近江地域 | | | | | | | | | | |
|-----------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|-------|----|----|----|---|---|----|---|----|---|---|
| | 大津市 | 草津市 | 守山市 | 栗東市 | 野洲市 | 甲賀市 | 湖南市 | 東近江市 | 近江八幡市 | 日野町 | 竜王町 | 彦根市 | 愛荘町 | | | | | | | | | | |
| 1920 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1930 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 1940 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1950 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 1960 | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1970 | 2 | 4 | 1 | | | | | 1 | 2 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 1980 | 2 | | 2 | 2 | | 1 | | 2 | 3 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 1990 | 4 | 3 | 2 | 2 | 3 | 0 | 2 | 1 | 2 | 10 | 1 | 3 | 5 | 4 | 5 | 1 | 2 | | | | | | |
| 2000 | 6 | 1 | 3 | 1 | 6 | | 2 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 9 | 6 | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 2010 | 1 | | 1 | | | 1 | | | 2 | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 合計 | 15 | 9 | 9 | 7 | 8 | 2 | 5 | 2 | 8 | 5 | 16 | 9 | 4 | 3 | 20 | 18 | 7 | 4 | 8 | 3 | 1 | 3 | |
| 字誌・字誌関連合計 | 24 | | | | | | | | | | 25 | | | 7 | | 38 | | | 11 | | 11 | | 4 |
| 地域別合計 | 24 | | | | | | | | 46 | | | | | 32 | | | | | 64 | | | | |

| 年代 | 湖東地域 | | | | 湖北地域 | | | | 高島地域 | | 合計 | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|------|----|----|----|---|----|----|-----|----|--|--|--|--|
| | 彦根市 | 愛荘町 | 豊郷町 | 甲良町 | 多賀町 | 米原市 | 長浜市 | 高島市 | 字誌 | 字誌関連 | | | | | | | | | | | | |
| 1920 | | | | | | | | | | | 0 | 1 | | | | | | | | | | |
| 1930 | | | | | | | | | | | 0 | 1 | | | | | | | | | | |
| 1940 | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | |
| 1950 | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| 1960 | | 1 | | | | | | | | | 3 | 3 | | | | | | | | | | |
| 1970 | 4 | | | | 1 | | 3 | 1 | | 1 | 1 | 14 | 13 | | | | | | | | | |
| 1980 | 3 | 3 | 4 | 1 | | | | | 2 | 1 | 2 | 6 | 2 | 3 | 28 | 28 | | | | | | |
| 1990 | 5 | 2 | 7 | 1 | 1 | | | | 2 | 7 | 1 | 7 | 2 | 7 | 70 | 18 | | | | | | |
| 2000 | 7 | 0 | 4 | | | | | | 4 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 59 | 19 | | | | | | |
| 2010 | 1 | 1 | 4 | | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 14 | 8 | | | | | | |
| 合計 | 21 | 7 | 19 | 2 | 1 | 0 | 8 | 1 | 5 | 1 | 9 | 3 | 13 | 9 | 11 | 8 | 189 | 95 | | | | |
| 字誌・字誌関連合計 | 28 | | | | | | | | | | 12 | | 22 | | 19 | | | | | | | |
| 地域別合計 | | | | | | | | | | | 34 | | | | 19 | | | | | | | |

以下、このリストをもとに字誌の刊行状況を確認してみよう。以下、刊行状況の地域差である。

表3 各市町村における年代別刊行点数は、各市町村における年代別の刊行点数を表にしたものである。すでに渡辺が指摘している通り、東近江地域・湖東地域に出版点数が多く、高島地域、大津と湖西側に比較的刊行が少ないという地域差は見られるものの、全市町村で出版がなされていることがわかる。

また表4 字誌の刊行にある字数と総字数の比率は、郵便番号表から割り出した滋賀県内における字の概算数と、字誌の出版点数の比率から算出した、字誌の刊行のある字数と総字数の比率の概算である。

これによると、甲良町のように発行点数は少ないものの、カバー率は七五・〇パーセントという非常に高い数値を示している町もある。一方、大津市のように発行点数は二四点と多いものの、市域は域内に字が多いため、町に比べると、カバー率が下がる傾向にある。

平均を超えるカバー率の刊行がなされているのは市域の場合、草津市・栗東市・野洲市と南部地域に集中しており、町の場合は東近江地域(日野町二二・二パーセント)、湖東地域(愛荘町五一・二パーセント、甲良町七五・〇パーセント)となっている。

こうした字誌の刊行に地域差がある原因は正確には不明であるが、

- ・ 近隣の字が字誌を出す、その評判を聞いて、自分たちの字でも字誌を出したいという意見が、字内に醸成される。
- ・ 自治体が字誌づくりに補助金を出している(米原市・愛荘町など)

等の理由により、地域差が発生するものと思われる。

このとき東田堂では、字内の郷土史家として知られていた、寺の住職がリーダーとなり、歴代の字の区長や長老また、小字から均等に編纂委員が選出され住民一〇名による東田堂字誌編纂委員会が立ち上げられた。

また米原市世継では字誌準備のための「よつぎ史」という新聞を刊行している。これは、字内の神社などの由来や古地図を特集した一枚ものの新聞である。字誌刊行の前に、字誌刊行に向けての住民の理解と協力をもとめるために発行されているものである。

東田堂や世継で見られるように、字誌作りに向けては、住民の協力が必須であり、字内で字誌作成の環境を醸成することが最重要である点は、字誌作りの場でよく語られることである。

また、こうした住民の協力が必須であるのに対し、外部の研究者はほとんど作成に携わらず、せいぜい住民が地元や近隣の博物館の学芸員に質問に行つて確認をするにとどまる点も、字誌の特徴となっている。

こうした字誌の記載内容や構成はまちまちであるが

- ・ 通史を記載したもの（通史型）
- ・ 字に残る古文書の読解、解説を行ったもの（文書解説型）
- ・ 近代以降の慣習や冠婚葬祭など民俗事象、現在の字の景観などをあつかったもの（民俗誌型）
- ・ 上記の内容を混合したもの（混合型）

実際に、最も多いのは混合型であり、例えば、栗東市の『栗東町野尻の歴史』では野尻地籍全図、写真集、野尻とその小字名といった口絵、地図などに続き、栗東町長ならびに区長の献辞が記載され、

日吉神社の祭神と由来

栗東町文化財日吉神社の構造形式等

野尻の歴史

古代

第一章 播磨田町の概観

一、播磨田町沿革の概要

第二章 播磨田の生い立ち

一、古代から中世

二、近世の状況

三、現代の変遷

第三章 暮らしを支える生業

一、昔から続く農業

二、地場産業

第四章 心を支える信仰

一、産土の神

二、しみいる鐘の音

三、延命地藏尊とその他の地藏尊

四、行者堂

第五章 人を育む郷

一、江戸時代の学校

二、明治時代からの学校

三、戦後の学校教育

第六章 きずなを結ぶ人々

一、社会活動

二、講と寄り合い

三、先達と四方山話

四、なつかしの唄

第七章 播磨田の自治

一、播磨田自治会の歴史と発展

二、播磨田自治会の活動

三、播磨田自治会の行事

豪族の消長

仏教文化

近世

近現代

町村制の推移

教育の進展

戦前の風俗

戦前の子供たちの遊び

子供と間食

子供と行事

子供と夏の飲物

古文書

水利に関する取りかわし状

伊勢講の歴史

お地藏さんの歴史

取水の変革

日吉神社の神輿

山之神祭の由来

神祭規約全書

水利上之記録

年表

歴代の戸長

編集後記

という構成になっている。

また守山市播磨田の『播磨田町誌 条里のむら』では、口絵ならびに区長などの献辞につづいて以下のような構成となっている。

四、播磨田町と公共機関

五、播磨田の展望

※章末資料として人口の推移、字の規定や自治会則を載せる

上記に挙げたのは二例だが、共通しているのは

・ 通史としては遺跡調査などの結果から古代史を述べたあと、字の近世史を説明している。（中世史についてはあまり触れられない）

・ 集落の寺社仏閣や講について載せる

・ 神事の規約や自治会の規約を載せている点である。

また、『播磨田町誌』にみられるように

・ 第二次世界大戦についてページを割いている

・ 自治会の活動や行事について記述している

・ 字ののもこうした字誌の特徴となっている。

4 字誌をどのようにに民俗調査で活用するか

筆者は滋賀における字誌が

・ 県の全域をカバーする形で刊行がなされている

・ 字が作成する歴史として、自治会規約や区有文書の一部が記載されている

・ という点を活用することが可能ではないかと考えている。

筆者が研究しているテーマの一つに、滋賀における飯券制度（ハンケン

セイド）というものがある。

これは滋賀県湖北・湖東地域の自治会やムラの自治組織が発行する金券

の制度である。実際には現地では、ハンケン（飯券）、キップ（切符）、ト

キフダ（斎札）といった名称で呼ばれている。飯券制度とは自治会から、

飯券が葬儀の際に発行されるものである。葬儀の際、喪主は自治会より飯

券を購入し、葬儀の通知とともにムラ内の各戸に配布する。各戸は飯券を

図1 滋賀県内切符の使用地域 国土院承認平14総領第149号



滋賀県

□で囲っている字は字誌に記載があるもの

家で保管しておく、自治会費徴収の際に自治会費と飯券を相殺するというものである。

この飯券については、先行研究がほとんどないのが現状である。自治体史誌では一部、長浜市史に記述があるものの、その他の自治体史誌には記載がなく、その分布域はまったく不明であった。

このため、筆者は飯券制度がある集落近辺を中心に聞き取り調査を行い、おおむね湖東・湖北の地域に分布していることは把握していた。しかし県内の他地域にまで、その分布が及んでいるかについては、やはり不明であった。ここで字誌を活用し、字誌・字誌関連全二八七点中、滋賀県立図書館にのみ所蔵されている一八九点を確認し、これに聞き取り調査の結果を加えて、分布域を割り出したのが図1である。

字誌にこの飯券が出てくるのは、まずひとつ、直接的に「飯券」という項目がたっているケースである。

例えば、米原市宇賀野区刊行の『湧水の里宇賀野』では「飯券」という一節がたてられ、以下のような記載がなされている。

「第八節 飯券 飯券の由来

昔、不幸があり葬儀が執り行われると、各戸の代表が会葬され、会葬された方々には粗飯が出されました。これを齋(とき)と言って「汁・三菜(味噌汁、大根、大豆、ひじきの煮物)・沢庵」でしたが、会葬者全員に出すと大変な量になり、女性たちは葬儀の前日から齋宿(ときやど)において準備されました。

齋を出すには米、味噌、沢庵などが必要で、年若い人を抱える家庭は気苦労が多いものでした。この気苦労の節減解決のために考えられたのが、飯券制度です。飯券は読んで字のごとく飯の券(金券)で会葬された方々に渡すものです。この制度の始まりの時期は定かではありませんが、葬儀以外の仏事においても簡素化をはかるために飯券を利用するようになりま

した。その他、新生活運動の一環として、冠婚葬祭の字内の贈答は品物に代えて飯券を活用するように勧められました(中略)特に宇賀野の飯券の歴史は古いようで、現在においても飯券は利点が多いとして生活改善の一環として利用されています。現在宇賀野の飯券は、百円券・二百円券・三百円券・五百円券・千円券の五種類があります。

現在は、各班の宮世話さんが各家庭で集まった飯券を集計して宮費として集め、神明宮社務所に収めています。

宮費より、少ない家庭は現金で不足分を払います。宮費より多い家庭はその分を返還してもらいます。

というように、飯券の由来・利用方法について概略を記載している。また、こうした詳細な記載がなくても、字誌に記載される生活改善規約などの村の規約から、飯券の存在を知ることができる。

長浜市雨森の字誌『字誌ふるさと雨森』では飯券の詳細な記載はないが、「雨森区生活改善規約昭和六三年二月」が掲載されており、

「三、葬儀および法要に関すること

1、葬儀(一)葬式の呼方は主親類および隣家五軒程とし

一般呼方:百円

連呼方:百円

一人呼方:百円

の貯金券を以てする」

というように、貯金券という名称で、この地域では飯券が使用されたことがわかる。

また、もつとも字誌が活用できるのは、その地域にこの飯券制度が(ない)という確認である。

例えば、竜王町小口区が編集した『小口史』では、生活改善の変遷として江戸時代、大正時代、昭和時代、平成の生活改善と項目を分けて記載がされている。

ここでは、大正時代に集落内の真気神社の春の祭礼の頭屋の餅つきを全

廃し、その後復活したことなどは記載されており、また昭和五九年制定平成九年改訂の生活改善規約の全文を載せているが、飯券に関する記載は一切見られない。あるいは、月輪栗林史編集委員会『月輪栗林史』では「葬礼と供養」という項目で葬送儀礼について以下のように細かく説明している。

「他所宿ソレンでは参列者が昼飯をとってもらうので、近所の家に頼んで宿にしてもらった。後でオタメをお返しした。

「香奠」五十年前前で重親類は一円、普通は一〇銭くらいで香典返しは七〇年前までは餅で返していた」

このように、この字では、細かく他所宿や香奠の記載はあるが、飯券に関する記載がまったくないことから、飯券はないものと推測される。

この調査結果から、この飯券制度は湖東・湖北にしか存在していないことが、実証することができたものと思われる。

5 字誌を使用した研究のこれから

上記、字誌を活用した飯券制度の分布の調査は一例であるが、このように県内全域をカバーして刊行されている字誌は、その地域の民俗事象の概要を知るうえで、非常に重要なツールであるということが出来る。

こうした字誌の今後の活用について、現在、筆者が考えているのは「生活改善規約」や近現代の「自治会規則」の分析である。

飯券については、その起源は不明であるが、多くの字において「生活改善の影響でできた」と語られるケースが多い。実際、生活改善の規約などに飯券の記載があるのはすでにみたとおりである。また、字内の取り決めとして、村規約や自治会規約に飯券係などの役員が記載されているケースもある。

しかし生活改善規約の条文や近現代の自治会の規則については、区有文書などにも残されることは少なく、「生活改善規約や自治会規則に地域性はあるか?」「制定や改訂の時期に共通点はあるか?」など、生活改善規約や

自治会則の網羅的・俯瞰的な調査は今まで行われていないのが現状である。しかし、字誌においては、断片的ではあるものの、生活改善規約や自治会則の条文や制定の背景など記載が書かれるケースが多く、この字誌を手掛かりとして、飯券制度だけでなく、生活改善規約や自治会則の研究を行っている段階である。

また、もう一つ検討しているのは、自分自身が字誌の作成に協力できないかという点である。

前述のとおり、字誌作成に外部の研究者が入ることは、非常に少なかった。これは字誌刊行の予算が、字内の自治会費と市町村の援助によって成立しており、外部の研究者への委託費用などを用意できないのが主な原因である。また、編集委員と外部研究者とのネットワークがほとんどなく、研究者側も字誌の存在を知らないというのが一因と考えられる。

しかしながら、外部の研究者が、字誌作成に協力することは、研究者としては字誌作成という行為が住民の歴史認識にどのような影響があるかをリアルタイムに観察することができ、また住民側へも、村おこし、お国自慢的な字誌でなく、学術的にレベルの高い字誌を作ることができるようい機会となると思われる。

幸い、現在、筆者が調査を行っている米原市世継では、字誌の刊行に向けて、住民意識の醸成を行っている段階である。この時点から住民と協力を行い、研究者が情報収集・構成検討・執筆の支援を行うことで、より良い字誌刊行に協力できないかを、今後検討したいと考えている。

注 (1) 字誌の明確な定義は研究者によってまちまちである。群馬県の字誌刊行の事例を取り上げた田中康雄は「字誌」とは小さな「地域史誌」である、とされる。小さな地域とは不定形な表現であるが、実際に編纂の対象となっている地域範囲は各種あつて、特定の行政区画よりは狭く、大字単位か数大字を含めた程度の地域を対象とした史誌であるといつてよいだろう。(田中 二〇〇〇)としてゐる。また、名護市史編さん室編(一九八五)「字誌をつくらう」では「一〇〇世帯程度、人口三〇〇〇〜五〇〇〇人規模の字(行政区)の人々が、自分たちの風

月輪栗林史編纂委員会『月輪栗林史』一九八一年
田中康雄「群馬県内における「字誌」編纂の動向」『双文』群馬県立文書館17号二〇〇〇年八月
中村誠司「沖繩の「字誌」づくり」『記録と史料』全国歴史資料保存利用機関連絡協議会一九九四年五月号
播磨田町誌編集委員会『播磨田町誌一条里のみち』二〇〇〇年
吉村風「名越における贈答と「切符」について」(福田アジオ他編『名越の民俗』二〇〇八年)竜王町小口区編『小口史』二〇〇二年
栗東町大字野尻区編『栗東町野尻の歴史』一九八八年
渡部幹夫「自治体史編さん事業と字誌編さん」『愛知川町史研究』三号愛知川町、二〇〇五年三月

土と歴史・生活・文化などを記録し描くものである。先祖代々住んできた地域の自然の特徴や農業・漁業・山仕事などの生業のこと、地域の自治や教育、家々の系譜、移民や出稼ぎの経験、戦争体験、戦争復興期の思い出、土地改良事業など地域ぐるみで取り組んだ様々な事業のこと、そして地元が生んだ人物、民話やわらべ歌・言い伝えなど、実にいろいろなことについて、先輩・同輩たちの体験や記憶をもとに、地域史料を含めて必要な調査研究を重ね、みんなが理解できる形にまとめあげる。それが字誌である。薄いものは一〇〇頁程度から一〇〇〇頁を超える厚いものまで、これもさまざまである」と定義されている。

(2) 中村誠司(一九九四)一四頁
(3) 字誌すべてが、県立図書館や市町村図書館に納められているわけではなく、地域の自治会や住民しか所持していないケースもあるものと思われる。文中で記載している米原市世継の「よつぎ史」は二〇一四年現在、県内の図書館や国立国会図書館には所蔵されておらず、住民のみが所有している状態である。
なお、市町村立図書館では分類件名が付与されていない図書館も多く、分類・件名による検索ができない館も少なくない。このため本リストでは県内の市町村図書館は一部の図書館のみの調査となっている。

(4) 渡部(二〇〇五)三三三-三四頁
(5) 沖繩では字誌作りのマニュアルとして名護市史編さん室編(一九八五)「字誌をつくらう」が刊行されている。また、このほか沖繩では二〇〇九年に沖繩自分史センター株式会社設立され、記念誌・字誌作成の支援を行うとともに、司上で記念誌・字誌の作り方を案内している。沖繩自分史センター株式会社「記念誌・字誌の作り方」<http://jibunshi.co.jp/tsukurikata.html>

(6) 渡部(二〇〇五)三四頁
(7) 栗東町大字野尻(一九八八)目次
(8) 播磨田町誌編集委員会(二〇〇〇)目次
(9) 吉村(二〇〇八)名越における贈答と「切符」について『名越の民俗』所収
(10) 宇賀野区誌編集委員会(二〇一三)一一三-一一四頁
(11) 雨森区(二〇〇〇)二三頁
(12) 雨森区では二〇〇〇年に字誌が刊行された後、二〇一〇年に字誌の増補編が作られている。ここでは生活改善規約の改正により平成一五年以降、貯金券が廃止されたことが記載されている。

(13) 竜王町小口区編(二〇〇二)
(14) 月輪栗林史編纂委員会(一九八二)
(15) 無論、住民の関心や何かしらの事情によって、飯券制度が字内にあつても記載がなされない可能性は存在する。

参考文献
雨森区編『字誌ふるさと雨森』二〇〇〇年
宇賀野区誌編集委員会『湧水の里宇賀野』二〇一二年

『縁一集いの広場一』3号目次

| | |
|------------------------------------|-------|
|海外特集..... | |
| 選挙を動かすキモチ —台湾選挙における感情的な要素について— | 蔡 亦竹 |
| 現代韓国の酒事情と酒の飲みようの変遷 | 中里亮平 |
| 秩序にこだわる韓国の結婚観 —ドラマで読む韓国の家族・親族観— | 鳥竹軒蓮花 |
| 韓国における足を洗うということ | 倉石美都 |
| 韓国三陟市における男根観光 —海神堂公園を事例に— | 安藤有希 |
| 邦楽囃子方A流の名取式 | 高久 舞 |

原稿募集 & 次号予告

次回『縁』は2014年9月下旬に発刊予定です。

内容、枚数に制限はございません。研究ノートもお待ちしております。

メ切は2014年8月31日です。

右記、事務局までお問合せ下さい。

ご投稿お待ちしております！！



@Mito Kuraishi

4年に一度のW杯でごみを拾った日本のサポーターたちが韓国から称賛された。サウジアラビアでは日本の小学校の「学校を自分で掃除する」という活動を実践させるようになった。日本の行く末がいろいろ心配されているが、これからも日本人として誇れることをたくさん強めていける国でありたい。

@Mai Takahisa

W杯はそれぞれの国の応援が楽しい！盛りながら応援する国、歌って応援する国、楽器を使って応援する国。その楽器も各国の特徴でてるし。サッカーのルールはよくわからないけど、そんな楽しみ方もありじゃない？

『縁—集いの広場—』5号目次

| | |
|---|-------|
| 木に上る伝承 —木に上るのには理由がある(三)— | 倉石忠彦 |
| 岩手県八幡平市田頭集落の葬送儀礼の変容 <small>はちまんたいしでんどう</small> | 安藤有希 |
| 東京生活史(1)—両親のこと、大森のこと— | 高久舞 |
| 失われた時を求めて — 日本文化が置き去りにしたものを「家門の栄光」から読む — | 倉石あつ子 |
| 瑞山市玉女祭 | 倉石美都 |

1号～5号は無料で配布しております。ご必要の際は縁フォーラム事務局までご連絡ください

編集後記

『縁—集いの広場—』6号をお届けする。

本号では、民俗地図特集として民俗地図に関する論考を掲載している。その多くは分布図を基礎として地図を重ねあわせ、読み取るという手法であった。筆者が本文に掲載している地図も同様であるため、あまり大口を叩けるわけではないが、民俗特集を組むことで広義の意味での民俗地図：すなわち空間模式図などを示す論考ができることを期待していた。研究者が考える「民俗地図」を各々示すことで、民俗地図について再度検討したかったからである。もちろん、長年問いかけて来ている民俗地図の概念を再び掘り返すのでは意味がなく、跡見学園女子大学で行われたシンポジウムを踏まえて足りない部分、検討しきれなかった部分を明確にしたかった。

筆者は、民俗学において空間と時間の重要性を改めて認識すべきだと考えている。当たり前のことだと失笑されるかもしれない。しかし「民俗学らしさ」を改めて見つめ直したいのである。それは、民俗学の行方、将来にとって重要なことではないだろうか。

最近、フィールドワークに出ない若手がいると聞く。民俗学の調査方法はフィールドを見つけて現地を巡見し、話者を見つけて話を聞き、そこから自分の研究を進展させていくことだと考えていた筆者にとって、とても衝撃的な話であった。もちろん文献調査も重要である。しかしフィールドに出て自分の足で歩き、目で見て、耳で聞かなくては何も始まらないではないか。事例を集めること、そしてそれを基に論を組み立てていくことは当たり前である。しかし、この「事例を集める」ことさえも当たり前ではなくなってきたのではないかと非常に恐ろしくなった。

半世紀前、もしくは三十年前でもいいが、その頃よりも調査が難しくなっていると感じている者もいるだろう。それゆえ、

当時を知らない若手は損をしている、今更フィールドで得られる情報は少ない……と考えているのかもしれない。しかし、民俗は常に変容していく、なくなるものもあれば新たに生まれるものもある。そしてそれを知るには、フィールドに出ないとわからないことなのだ。

これまで多くの研究者たちが集めた事例や、研究方法を見直すことも重要である。しかし、現在のフィールドに出る事例を集めることを疎かにしてはならない。「現在学」である民俗学にとって、今の事例を集めることも研究の一つなのである。

民俗地図の話題から大きくそれてしまったが、民俗学の土台がどこにあるのか、それぞれ見直すことが今後の民俗学を考える上で必要なのではないだろうか。前述したように、空間と時間を考える上で民俗地図は有効な手段だと考えている。今後民俗地図を検討する機会をつくっていきたい。

(高久舞)

縁—集いの広場— 6号

平成26年6月30日発行

縁フォーラム 事務局

〒180-0023

東京都武蔵野市境南町 2-12-2-603

武蔵野エイトマンション

倉石美都 方

enishi_hiroba@yahoo.co.jp